



2013-2014 年度
国際ロータリーのテーマ

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

ガバナー月信

2月

2013-2014 Rotary International District 2760

- ガバナーメッセージ…① / 世界理解月間に寄せて…② / RI 会長からのメッセージ…③
第1回ガバナー補佐会議報告…④ / フィリピン義援金(台風30号)に感謝…⑤ / 2014年度米山奨学生選考会報告…⑥
2014～2015年度ガバナー補佐紹介…⑥ / ロータリー研究会…⑦ / 近藤ガバナーエレクト壮行会開催…⑦
1月13日発表 国際ロータリーニュースより…⑧ / 2016～2017年度ガバナーノミネートズグネット選出の報告…⑧ / 分区紹介…⑨
ロータリー平和フェロー9期生 水野ショー真希さん 活動報告…⑩ / 東ヶ崎潔記念ダイアログハウスへの募金について…⑪
総務委員会報告…⑫ / 文庫通信…⑫ / よもやま話…⑬ / 編集室だより…⑬ / 会員数及び出席報告…⑬

ガバナーメッセージ

世界理解月間

ガバナー 田中 正規

ロータリーができて、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕活動が始まり、世界中にロータリークラブができるようになり、第4の奉仕部門として国際奉仕の概念が生まれました。1917年アーチ・C・クランフ RI 会長による基金の設置の提案が1928年ロータリー財団となり、1947年財団初のプログラム「Fellowships for Advance Study (高等教育のためのフェローシップ)」を開始。その後国際奉仕の大半がロータリー財団からの資金調達で行えることになり、1957年国際ロータリーの理事会は毎年2月を世界理解月間と定め、特に創立記念の2月23日を「世界理解と平和の日」としました。世界理解月間は政治的、宗教的、文化的に尺度が異なる人々の間で世界理解、世界平和、国際親善を深めるためにプログラムと活動を行うことを決めています。また、2月23日から3月1日まで“世界理解と平和週間”とし、世界中でロータリーの広報活動が盛んです。1985年に発足した国際ロータリーの特別プログラムであるポリオ・プラスは世界的にもロータリーを有名にしましたが、当地区も日本の他地区と歩調を合わせ、新聞等で国際ロータリーの現在でも最大重点事項の「End Polio Now (ポリオ撲滅)」の広告を2月23日一斉に掲載を予定しています。是非、各クラブにおかれましては地方紙に広告等のご協力をお願いします。



その後国際奉仕の大半がロータリー財団からの資金調達で行えることになり、1957年国際ロータリーの理事会は毎年2月を世界理解月間と定め、特に創立記念の2月23日を「世界理解と平和の日」としました。世界理解月間は政治的、宗教的、文化的に尺度が異なる人々の間で世界理解、世界平和、国際親善を深めるためにプログラムと活動を行うことを決めています。また、2月23日から3月1日まで“世界理解と平和週間”とし、世界中でロータリーの広報活動が盛んです。1985年に発足した国際ロータリーの特別プログラムであるポリオ・プラスは世界的にもロータリーを有名にしましたが、当地区も日本の他地区と歩調を合わせ、新聞等で国際ロータリーの現在でも最大重点事項の「End Polio Now (ポリオ撲滅)」の広告を2月23日一斉に掲載を予定しています。是非、各クラブにおかれましては地方紙に広告等のご協力をお願いします。

昨年度から地区として世界社会奉仕委員会、今年度から地区の改革スリム化で識字率向上委員会は無くなりましたが、活躍分野はもちろん必要です。更なる奉仕活動の効率化を求め、国際奉仕委員会とロータリー財団委員会との連絡を密にする必要があります。

ロータリー平和フェローシップは、国際ロータリーの最も新しい奨学金プログラムで、世界平和の実現と紛争の解決に寄与できる人材育成を行うことを目的としています。世界の6大学にある5つのセンターで、選出された学生が「明日のリーダーを育てる」修士課程で平和と紛争の学位を修めます。また、「今日のリーダーを強化する」専門能力開発修了証プログラムは1大学1センターにあります。日本では、国際基督教大学がロータリー平和センターの指定を受けて、2002年よりフェローを受け入れています。



世界理解月間に寄せて

国際奉仕委員会 委員長 佐藤 文昭

1905年2月23日はロータリー創始者ポール・ハリスが友人3人と最初に会合をもった日である。この2月を特別月間として世界理解月間に指定されている。同月間中、クラブは世界平和に不可欠なものとして理解と親善を特に強調するクラブ・プログラムと活動を実施し、世界社会奉仕を中心としたプログラムを行うよう要請されている。

1992年規定審議会は、2月23日に始まる1週間を「世界理解と平和週間」と呼び、ロータリーの奉仕活動を強調することを決議した。

この2月23日の記念日は世界理解と平和の日として遵守されている。

2760地区の国際奉仕委員会では、2014年2月と3月に世界理解月間と識字率向上月間に卓話を実施させていただきます。当地区39のクラブから卓話の依頼をいただきました。人身売買、世界の識字の問題、地区国際奉仕委員会の平和への理解と親善にどう取り組んできたのかをお話しさせていただきます。

人身売買では、今現在でも世界のあちこちで様々な形で行われているという現実、我日本では、人身売買の最大の受け入れ国であるという事実、先進国では考えられない事ですが、貧しい国が豊かさを求めて来る。人々は色々な組織を通じて日本に入ってきます。日本に来ているすべての貧しい国の人々が人身売買にかかわっているわけではありませんが相当数の人がいるという事は現実です。

又、識字ではいかに多くの人々が教育を受けられなくて、読み書きができなく、不利益なあつかい又生活を送っているのを想像してみてください。タイ語を知らない日本人がタイの町でタイ語の看板を見てどこへ行ったらいいのやら、医者はどこやら、ホテルはどこやら、食事は何やらと、まったく生活ができなくなりますよね。又、自分の言いたいことも人に伝えられない、こんな悲しい思いをしている人が世界にはものすごい数いる現実。

これらの事の原因をつきとめてみると、世界の飢餓、貧困、紛争が起因しているのではないかと思います。人身売買も識字の低下もこれらの原因の一つでも少なくすれば解決の道は開かれていくと思います。私達一人一人の力は小さなものですが、ロータリークラブという組織を活用して大きな力をもって問題解決することができると思います。

これらの卓話が皆様方クラブの国際奉仕活動の一つのヒントになれば幸いです。



RI会長からのメッセージ



ロン D. バートン
2013-14年度会長

親愛なるロータリアンの皆さん、私たちはロータリーについて、その部門とさまざまな世代を合わせて拡大家族として話すことがよくあります。私たちは青少年プログラムの参加者や学友をロータリー家族の一員として評価し、また、子どもや家族に対する奉仕に、特に力を入れています。私たちがこのようにしているのは、いかなる家族にとっても、若い世代が未来であることを知っているからです。このことは、私たちロータリーについても当てはまります。

若い世代をロータリーの会員として迎え入れることが、私たちにとって絶対に必要なことであると知っています。私たちはこれまでに多くの時間をかけて、どのようにしたら若い職業人をロータリーに引き付けることができるかを話し合ってきました——しかし、どうしてロータリーに留まらないかについては、恐らく十分に論じてこなかったのではないのでしょうか。

小さい子どもを持つ会員に配慮する

ロータリーに入会した大勢の若い人たちの中には、青少年プログラムの経験者もいます。しかし彼らが自分たちの家庭を築き始めると、その多くは去っていきます。その理由は想像に難いものではありません。それらの人たちは、家族と離れていられる限界を超えてロータリーに時間を取られている若い職業人です。彼らがどんなにロータリーを好きだとしても、配偶者や子どもよりもロータリーの奉仕を優先することはないでしょう。

私たちもまた、彼らにそれを求めるべきではありません。こんなわけで、家族をロータリーに迎え入れる方法を見いだすことが、私たちにとってとても重要なことなのです。ロータリーと家族は、ロータリアンの時間を奪い合うものではありません。家族全員を巻き込む奉仕プロジェクトの計画を立てたり、例会中、子どもを預かったり、例会の時間や場所に柔軟性をもたせたりするなどして、私たちは小さい子どもを持つ人たちにとって、ロータリーの奉仕を実行可能な選択肢の一つにする必要があります。

家族のカレンダーにロータリー

皆さんはロータリーに家族を迎え入れ、このように言うでしょう。「家族は皆さんのロータリーの奉仕の邪魔にはなりません。家族は予定から除外されるものではありません。家族を家に置いてお母さんやお父さんがロータリーに出かけるのではなく、ロータリーが家族のカレンダーに書き込まれるのです。ロータリーの家族は現実のものです。これらの子どもたちは自分の親が社会奉仕にかかわっている姿を見ながら成長し、自分たちも関わっていくようになるでしょう。それは家族にとって素晴らしいだけでなく、活動的で奉仕の心を持つ新しい世代の若い会員を育てることにつながり、ロータリークラブにとっても素晴らしいことです」

人生やキャリアのどの段階にあっても、ロータリーには——私たちに、より多くのことをさせる手段、私たちがもっと多くを与えるのを可能にする手段、そして私たちの存在感がもっと増す手段など——、私たち一人ひとりのための何かを持っています。ロータリーは私たちみんなにとってとても大きな存在です。



第1回ガバナー補佐会議報告

事務局長 柴田 高広

さる2013年12月19日に、第1回のガバナー補佐会議が開催されました。田中年度が始まる前には、次年度ガバナー補佐研修会議というタイトルで、回を重ねたこの会議でしたが、田中年度が始まってからは、初めての会議です。今回は、ガバナーの地元、西尾市での開催をと、かねてより榊原地区幹事が企画を練っておりました。風光明媚な三河湾国定公園の中にある、リゾートホテル「リンクス」での開催でした。

第1回といっても、半年経過しての12月の開催ですので、各種の報告事項が主な議題です。杉浦澄雄地区筆頭副幹事の歓迎と開会の挨拶の後、田中ガバナーからは、7月からの振り返りとお礼、あと半年のご協力のお願いのご挨拶がありました。

議事としては、榊原地区幹事の説明で進行し、公式訪問の終了報告、地区大会の終了報告、分区補佐訪問の終了報告、などの報告がなされました。ガバナー補佐の皆様から、補佐訪問の報告をコメントしていただきました。2分ほどという失礼な時間設定でしたが、とても収まるわけもなく、各訪問先クラブでの温まる歓迎と、例会運営での新しい発見、そしてエピソードを楽しそうに話されました。

また、各分区で予定されているIMの開催については、分区代理様をもとに、盛会におこなわれるよう期待している旨、ワールドフード+ふれ愛フェスタが盛況で、次年度の開催も検討できる様子との話の後、サクセスジャパン(SAKUJI)作戦の状況と会員増強の推進依頼、またその関連でe-clubについて説明がなされました。その他には、フィリピン義援金について、ロータリーカードについて、ICU平和センター募金について、ガバナー補佐訪問報告書、提出依頼についてが、報告及び依頼されました。どのイベントも皆様のご尽力により、これまでつつがなく進行できたとの安堵の中、会議はお開きとなりました。

さて、会議ではありますが、ガバナー補佐様はじめ、田中ガバナーを支援して下さった皆様との懇親も、もうひとつの目的です。会議の後は、夕刻の三河湾を露天風呂から楽しんでいただき、そしていよいよガバナー補佐様と分区幹事の皆様、そして事務局側の地区副幹事及びスタッフの皆さんとで、にぎやかな懇親会となりました。尾崎地区監事の乾杯のご発声のあと、ガバナー補佐の皆様の美声もまじえながら、楽しく宴は進みました。また、翌日はオプションのゴルフにも多数参加していただき、楽しいコンペとなりました。

夏には、吉良ワイキキビーチでハワイアンフェスタも開催される、太陽と海とみどりの街。吉良上野介、吉良の仁吉、尾崎士郎のふるさと。西尾市吉良町。皆さんも、おいでになりませんか。



会場となった三河湾リゾートリンクス



2013-14年度地区大会に出席された
同期ガバナー夫妻



ワールドフード+ふれ愛フェスタ



フィリピン義援金 (台風30号) に感謝

地区幹事 榊原 勝俊



国際ロータリーケアセンター (レイテ島、オルモック市内)

2013年11月8日フィリピン(タクロバン)を直撃した台風30号は1万人以上の死傷者を出しインフラ等もずたずたに破壊し甚大な被害をもたらしました。地区大会RI会長代理がフィリピンのアントニオ・ラフィーノ氏であり2760地区はいち早く義援金の募集を83RCに田中がバナーより呼びかけお願いを致しました。また、地区大会会場にても募金箱を置き呼びかけました。東日本震災の記憶も新しく1ヶ月程で500万に達する義援金を地区内全ロータリアンの皆様からご寄付頂きました。心より御礼申し上げます。



タクロバン地区

早速12月20日には現地へ送金させて頂きました。

送金先につきましてはフィリピンRI第3780地区内ロヨラハイツRC、サンフランシスコ、デルモンテRC、ニューマニラ、イーストRCが中心となり支援団体「国際ロータリー、ケアセンター」を台風後10日ほどで立ち上げました。この情報は今年度VTT委員会でフィリピン第3780地区内RCと医療チーム派遣事業の打ち合わせでVTT委員長(福田)が行っており情報が逐一入り素早い対応ができました。尚、フィリピンと姉妹提携している4RCは直接それぞれに支援されました。

国際ロータリーケアセンター代表より海外からは1番早く支援頂大変助かりますとのメールを頂いています。皆様からの貴重な浄財まことに有り難うございました。

第2760地区ガバナー 田中 正規



2014年度米山奨学生選考会報告

米山奨学委員会 委員長 伊藤 敦夫

2014年1月13日(月)午前9時から17時まで名古屋国際センタービル5階において、2014年度米山奨学生の第3次選考(最終面接試験)を田中ガバナー、福田米山記念奨学会理事、榊原地区幹事と面接官19名、合計22名、6班編成にて面接を開始、各面接官は将来日本と世界を結ぶ「懸け橋」となる人材を見出す為に書類審査や面接において、日本語コミュニケーション能力やロータリー活動への積極性などを考慮しながら真剣に取り組んでいました。午後3時より最終合格判定会議を開きました。今回申請のあった留学生は通常応募と海外直接応募で87名であります。この中から通常応募から35名と補欠4名を選定、海外応募の面接を2月に行い、1名を選定します。継続奨学生1名を含め2014年度奨学生は37名になります。合格した留学生の出身国は15か国です。奨学生の選考は地区が指定する大学から推薦された外国人留学生を米山記念奨学会と地区選考委員会で書類の1次審査、2次審査を経て面接試験となります。推薦された留学生は優れた人たちがばかりで面接官も選考には苦労しましたが、国別や大学、男女の割合などバランスを考えながら合格者を決定。奨学事業の使命である日本と世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍しロータリー活動の良き理解者となる人材を育成することにあるように、奨学生の皆さんの将来活躍することを期待します。



面接試験に臨む留学生

2014～2015年度 ガバナー補佐 紹介

分 区	氏 名	所属クラブ
南尾張分区	牧野 克則 (マキノ カツノリ)	常滑ロータリークラブ
西尾張分区	野杵 章夫 (ノイリ アキオ)	一宮ロータリークラブ
東尾張分区	加藤 令吉 (カトウ レイキチ)	瀬戸ロータリークラブ
西名古屋分区	宮田 紀昭 (ミヤタ トシアキ)	名古屋西ロータリークラブ
東名古屋分区	松野 一彦 (マツノ カズヒコ)	名古屋東山ロータリークラブ
東三河分区	中島 忠幸 (ナカジマ タダユキ)	新城ロータリークラブ
西三河中分区	桐渕 利次 (キリブチ トシツグ)	岡崎城南ロータリークラブ
西三河分区	黒田 勝基 (クロダ カツモト)	高浜ロータリークラブ



世界理解月間

ロータリー研究会

ロータリー研究会 (ROTARY INSTITUTE) は、研究会の対象範囲の地域に居住している RI の元、現、次期役員の出席と参加を目的とする会合であります。

目的として、RI と財団の方針と最新情報を提供すること、RI に対する意見や提案を述べる機会を与えること、そして親睦を深め奉仕の意欲を高めることです。

今年度ロータリー研究会 (第42回) は、去る12月2日～4日の3日間ホテルグランパシフィック LE DAIBA を会場に、RI 会長ロン バートンご夫妻、TRF 管理委員長 D.K.Lee ご夫妻をお迎えして開催されました。

第1日目は、RI 会長・TRF 管理委員長ご夫妻歓迎晩餐会が盛大に行われました。2日目の開会式は招集者、北 清治 RI 理事の点鐘で始まり、来賓の挨拶、RI、財団の近況報告の後、わが地区の江崎柳節 RRF のポリオプラスの現況報告がありました。各種報告が続き昼食後ロン バートン RI 会長は「日本のロータリアンに期待する」との基調講演をされました。続く第1セッションは私を含めて3名の現ガバナーがパネリストとして今年度 RI テーマ「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」に沿った発表をしました。次の3日目の第5セッションまで熱心に討議が行われました。最後に三浦雄一郎氏の「80歳エベレスト登頂～希望の軌跡～」の記念講演があり会場は三浦氏のバイタリティとスピーチに深い感銘を受けました。大変有意義な3日間でありました。



近藤ガバナーエレクト壮行会開催

1月7日(火) 名鉄グランドホテル「涵梅舫」において近藤ガバナーエレクト (以後GE) 壮行会が地区パストガバナーの皆様により開催されました。当日は17名の出席があり、ガバナーノミネーデジグネイトの選出法の確認の会議を壮行会前に開催。会議終了後、近藤GEを囲んで集合写真を撮りました。

福田浩三パストガバナーの激励の乾杯発声にて壮行会が始まり、近藤GEより御礼のご挨拶がありました。その後、出席者全員より近藤GEに対し、一言ずつ激励、助言の言葉があり、終始和気あいあいの新年会になりました。

なお、近藤GEはアメリカ・サンディエゴの国際協議会 (1月12日～1月18日) にご夫婦で出席されました。





1月13日発表 国際ロータリーニュースより



2014-2015年度RIテーマ

ロータリーに輝きを

Light Up Rotary

2014-15年度RI会長

ゲイリー C.K. ホアン



2016～2017年度 ガバナーノミネーデジグネート選出の報告

地区指名委員会（委員長 田嶋好博パストガバナー）より、同委員会は2013年11月23日開催の地区指名委員会において2016～2017年度のガバナー候補として、服部良男君（岡崎ロータリークラブ）を指名した旨、11月23日に報告を受けました。

国際ロータリー細則第13条の規定により、2016～2017年度ガバナーノミネーデジグネートとして服部良男君の選出が確定したことをご報告いたします。



はっとり よしお
服部 良男

1952年2月11日生

服部工業株式会社 代表取締役

◆ロータリー歴◆

- 1989年1月 入会
- 1992～1993年 国際奉仕委員長
- 1995～1996年 会場監督
- 2000～2007年 地区ローターアクト委員
- 2002～2003年 ロータリー財団委員長
- 2004～2005年 第54代クラブ幹事
- 2006～2007年 地区ローターアクト委員長
- 2010～2011年 第60代クラブ会長

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー / ベネファクター / 米山功労者



分 区 紹 介

国際ロータリー第2760地区 東名古屋分区

分区幹事 中山 信義

当分区のクラブは創立が優に50年を超えるクラブから昨年度末に誕生したクラブまで千差万別である。ただ、活動自体は、ほとんどのクラブがそれぞれの所在地域に根を下ろし、地域のボランティア団体、消防、警察、区役所などの行政機関などと連携して青少年育成、環境保護活動、交通安全の推進等に長期間、地道に取り組んでいる。さらに、世界に目を向け独自に国際的な援助活動に取り組んでいるクラブも多い。

そのなかで、今年の特筆すべき出来事を挙げるとすれば次の2点である。

1点目は、昨年度末に誕生した名古屋アイリスRCである。デュアルジェンダーの推進をクラブのモットーに掲げ、33名の会員のうち12名が女性会員で構成され、理事役員や委員長の要職にもあまねく登用されている。新しいロータリークラブの形の一つとして今後の活動に期待したい。

2点目は、昨年11月2日から4日にかけて、名古屋栄の久屋大通公園で「ワールドフード+ふれ愛フェスタ」が、当分区の名古屋和合RCが中心となり、第2760地区内83クラブの共同事業として開催されたことである。3日間で5万人以上の来場者があり、県内のマスコミにも取り上げられ、ロータリー活動の公共性に対する認知度を高めるとともに、収益金約200万円がカンボジアの簡易水道建設資金に充てられ、本年3月末には完成予定とのことである。詳細は、ガバナー月信12月号、ロータリーの友1月号をご覧ください。



国際ロータリー第2760地区 東三河分区 IM報告

東三河分区 幹事 富安 美孝

テーマ 東三河の文化にふれてみよう
 日 時 平成26年1月19日(日) 12時～14時30分
 場 所 ホテルアソシア

田中ガバナーが掲げられた「磨いて 輝こう」に合わせて、会員各位に自分を少しでも磨き輝いて地域に少なからず良い影響を及ぼしていただけたらとの願いを込めて、この地域で誇りを持つ一つとして魚町で永く保存され受け継がれてきた文化遺産である「能装束と面」を取り上げ、参加される方々の心に地域の誇りとして文化認識し留めて頂くと言うか、心をも磨いていただくきっかけとなればとの思いで一部ロータリアン以外の方にも参加頂き、開催されました。

能楽界の重鎮、観世流シテ方、日本能楽会会長で東京藝術大学名誉教授、和泉流狂言方六世野村万蔵の四男であり重要無形文化財保持者の野村四郎先生に能の発祥、能と狂言の関係(能は虚構を実に、逆に狂言は実を虚構に演じて見せなければならない。まさに能と狂言は表裏一体で相対性のモノを一体化した日本文化の一つの形であろう。と言った講演があり、魚町に伝わる能の面(おもて)と装束の素晴らしさを映像で示しながらその特徴と演目と面や装束の関係、扇の違いや歴史を解説。続いて、一般には見ることの出来ない能装束の着付けを実演し、その装束と面(魚町所蔵で名工と称される井関河内作の)をつけ終わると同時に、羽衣を演じて参加者に感動を与えて頂き、町の宝として大切に・・・と締めくくって頂きました。

友愛の広場は設けましたが、懇親会は止め、1点集中型のIMとさせて頂きました。演能の際は立ってまでご覧になった参加頂いた一般の方と東三河分区のメンバーおよそ300人の方々とホストの豊橋南ロータリークラブのメンバーに感謝してご報告とさせて頂きます。





ロータリー平和フェロー9期生 水野ショー真希さん 活動報告

(津島 RC から地区へ)

2013年も残すところ後僅かとなりました。

ご無沙汰いたしております。お元気でいらっしゃいますか。

ナイロビにきて約一年が過ぎ、家族ともどもケニアの気候や生活に慣れたように思います。

6月にはソマリア国内の国連事務所が襲撃され、国連開発計画の同僚を失い、9月のナイロビのショッピングセンターの襲撃では、ユニセフの同僚が撃たれるなど、紛争近くで働いていることを実感した年でした。

この一年、ユニセフソマリア事務所にて学んだことは多く、特に、ロータリー奨学生として学んだ平和構築の知識を、専門である教育とあわせて生かすことのできる、教育と平和構築のプログラムに関わらせていただいたことは、とても良い経験となりました。ソマリアではまだ、小学校の就学率は50%にも届きません。紛争のためにきちんとしたデータ収集もできないため、実際に何人の子どもたちがいるのかさえ把握できない状況にあります。教師不足、学校不足、教師の質の低さ、教育省のキャパシティの低さ、抱えている問題は数多くあります。

ユニセフでは、今年から、2年でもう100万人のソマリアの子どもたちが学校に行けるようになるプログラムが始まります。微力ながら支えていければと思います。

まだまだ寒い時期が続きますが、お体ご自愛ください。

来年もよろしく願い申し上げます。

水野



2012年6月、クィーンズランド大学を訪れた、カルヤン・バネルジー RI 会長と





東ヶ崎潔記念ダイアログハウスへの募金について



・ICUとは

国際基督教大学 (ICU) は、1953年、東京都三鷹市に「敗戦国日本の再起と創造に貢献する『明日の大学』」として献学し、少人数制によるリベラルアーツ教育によって世界を舞台に活躍する人材を輩出してきました。その基本理念の現れのひとつとして、2002年ロータリー平和センターがICU大学院修士課程に設置され、今日まで国際平和に寄与する優れたロータリー平和フェローの育成に大きな評価を得ております。

2013年に献学60周年を迎えるにあたり、ICUは世界平和の建設を目指すダイアログ（対話）の場となることを宣言し、世界の若者が集う「出会いのプラットフォーム」を提供するべく、「ダイアログハウス」を建設いたしました。

ICUはこの施設に、ICU初代理事長であり、日本人初の国際ロータリー会長であった東ヶ崎潔氏のお名前を冠しました。これは、ICUの基礎を築かれた東ヶ崎氏への感謝の気持ちを表すものであると同時に、先の大戦前後に多くの困難の中であって、日本人として、また国際人として、世界平和の構築に身を捧げられた東ヶ崎氏の遺志を継いでいこうという、決意表明でもあります。

・募金について

国際基督教大学 (ICU) より東ヶ崎潔記念ダイアログハウスへ2億円の寄付要請を受け「日本におけるロータリー平和センターを支援する委員会」では2010年からロータリアンの皆様への募金を呼び掛けてまいりました。その結果2013年12月現在募金総額は52,332,646円となっております。

・募金の概要

募金の名称	国際基督教大学献学60周年記念事業「東ヶ崎潔記念ダイアログハウス募金」
募金の目的	東ヶ崎潔記念ダイアログハウス建設費用のため
事業総額	約19億円
募金目標額	2億円
募金期間	2010年4月から2016年3月まで
募金主体	学校法人 国際基督教大学
募金の対象	日本全国ロータリークラブおよび会員の皆様
一口の金額	特に定めておりません。金額に関わらず、ありがたくお受けいたします。
免税措置	本寄付金は所得税の寄付控除の対象となります。2011年より既存の所得控除に加え、税額控除制度が導入され、免税の恩恵が拡充されました。また、対象地域においては住民税の税額控除の対象にもなります。領収書などの必要書類は、ご入金確認後にICUよりご寄付者へお送りいたします。
寄付者の顕彰	国際ロータリーの顕彰 建物の入り口に国際ロータリーのロゴマークを掲示いたします。 50万円（累積）以上の寄付者（個人またはクラブ） 顕彰板にお名前を掲示いたします。 10万円（累積）以上の寄付者（個人またはクラブ） 「ICUロータリー平和センター支援パーティー*」の称号を差し上げ、感謝状をお送りいたします。また、ICUロータリー平和センターの年次セミナーへご招待いたします。 *東ヶ崎潔氏の活動テーマであった「Participate!（参加し敢行しよう）」に因む。 1万円以上のご寄付者（個人） ICU大学礼拝堂でのパイプオルガン・コンサートに2名様をご招待いたします。 本学へご寄付いただきました皆様のご芳名やクラブ名を大学広報誌「The ICU」「献学60周年記念事業報告書」、ホームページなどに掲載いたします。



江南ロータリー 山田 猛

私は父・私と息子で3代の産婦人科医です。今、息子が中心となって診察をしております。私が大学生のとき、48歳で父をなくしました。それからというもの少し苦勞をしましたが父のあとを継ぎ、少し改造をして開院しました。それまでは名古屋第一赤十字病院に勤務しておりました。その地では少し手狭になり、今の地にて再開業しました。当初はたくさんの患者さんが来てくれ大いにはやりました。今は少子化の時代で月に30前後のお産をこなしています。ここで今の産婦人科の状況を話してみたいと思っております。生まない日本の産めない事情、無事に生まれて当たり前。高齢妊娠、出産には医学的に診てもさまざまなハイリスクが伴う。そうしたリスクについて、男性も女性もまったく認識していない。実際に体の変化を伴う女性の中には、何の根拠も無く自分は大丈夫。いつだって妊娠出産できるはずと、勝手に思っている人が少なくない。2006年大淀町立大淀病院事件でたらいまわしになり流産した妊婦は、妊娠20週まで検診を受けていなかった。未受診を責めるのではなくて、このような未受診妊婦を減らすような行政の努力が必要だと思います。妊娠率を上げることに貢献している妊婦健診へ公費助成であるが問題もあり。公費助成の額が都道府県によってばらつきがある。7～8万の公費助成をおこなっているところが多く、東京では10万ほどである。ところが大阪ではわずか4万円である。全国で際立って低水準にとどまっている。その結果妊婦が健診費用の一部を負担しなくてはならないという時代に逆行した行政を行っている。女性の社会進出、晩婚化などから初産の平均年齢が高くなってきている。初産の平均年齢は30.1歳また高齢妊娠・出産も確実に増えている。妊娠・出産には人それぞれの事情があり、仕事や子育てに対する考え方も違うので、何歳で子供を産むかは個人の自由である。正しく見ると、妊娠・出産の適齢期は25～35歳であり、この年代が体力的、精神的に妊娠、出産にもっともふさわしい時期である。卵巣の機能は、20歳代後半でピークに達し、30歳代にはいると徐々に衰えてくる。当の女性に、意外とこうした自分の体、特に生殖にかかわる知識がとばしいのである。中学生、高校生のときに女性の体のことや生殖の教育がきちんとされていなかったことに問題がある。

316号

文庫通信

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2丁目6番15号 黒龍芝公園ビル3階
TEL 03-3433-6456 FAX 03-3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp/>
開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

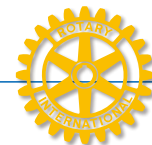
「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万3千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

デジタル化されたロータリー文献（1）

- ◎「友を選ばば」 佐藤千壽 東京東 R.C. 1994 27p
- ◎「ロータリーのこころ」 佐藤千壽 1997 65p
- ◎「脚下照顧」 佐藤千壽 東京足立 R.C. 1997 59p
- ◎「ロータリーと禁欲の倫理」 佐藤千壽 大分 R.C. 1991 59p
- ◎「言葉は人生の杖」 佐藤千壽 2003 39p
- ◎「職業倫理」 佐藤千壽 東京東 R.C. 1992 64p
- ◎「窓を開くロータリー広報資料」 前原勝樹 1985
- ◎「広報」 津田 進 1988
- ◎「三つの山脈」 津田 進 千曲川 R.C. 2002 40p
- ◎「前原ガバナー講話集」 D.355 - 87p
- ◎「ロータリー広報乃王道」 佐藤千壽 D.2780 1997 34p

[上記申込先：ロータリー文庫]



広報
委員会の

よもやま話

No.19

[第2760地区広報委員会]

委員長:尾本 和弘(名古屋東南) 副委員長:佐久間 武美(雑誌)(豊橋北) 池森 由幸(Web)(名古屋千種) 田中 粹人(管理)(豊川)
委員:岡田 邦義(岡崎) 堀尾 明史(尾張中央) 堀田 力男(津島) 松崎 美都子(名古屋守山) 城野 八代江(名古屋名駅)
志水 ひろみ(春日井) 坂野 弘(岡崎東) 糸井 学(名古屋みなと) 杉浦 令淑(名古屋大須) 平野 好道(名古屋瑞穂)

ロータリアンの皆さん、クラブ広報を担当すると先輩から「内外の広報をお願いします」と言われませんか? 内の広報は「週報・Weekly Report ホームページ」でのクラブ内広報を表します。外に向けた広報は「他クラブ・一般市民」に向けた広報に成ります。

外に向けた広報は「テレビ・ラジオ・ホームページ・新聞・ガバナー月信・ロータリーの友」の利用した広報に成ります。

一般市民に向けた第2760地区の広報は「ガバナーホームページ・新聞(中部経済新聞)」が思いつきます。これらの広報は何時から始まったのでしょうか? 調べてみると

ガバナーホームページの始まりは「2004-05年度・大島宏彦ガバナー」からです、この年度は「愛・地球博:ロータリー館(友愛の家):館長:豊島徳三PDG」のPRをする為に開設がされました。またガバナー月信が紙配信からインターネット配信となりました。

中部経済新聞の「ロータリー」のコラムページは何時から始まったのか? ご存知ですか? 調べて見ると「犬飼栄輝ガバナー月信1997年10月(No.4)P14 広報委員長会議:吉水正溥委員長」に記載が有りました。(ガバナーの歩み:2760文庫内、月信から閲覧ができます)

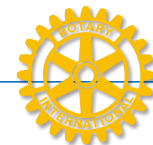
当時の月信の要点を転記:

1997-98年度 広報委員長会議

日時 / 1997年7月24日(木) 会場 / 名鉄グランドホテル

本年度クラブ広報委員長会議は7月24日14時から15時30分まで開催され、犬飼ガバナー、福島地区副幹事、各分区代理ら地区役員と地区内76クラブの広報委員長、そして中部経済新聞社の主要な方々の参加を得ました。

開会挨拶	地区広報委員	中野 靖子
ガバナー挨拶	ガバナー	犬飼 栄輝
今年の広報活動について	地区広報委員長	吉水 正溥
ガバナー月信について	地区副幹事	福島 啓氏
ロータリー広報の報道について		
	中部経済新聞社 常務取締役	中村 隆義
閉会挨拶	地区広報委員	竹倉 鍵治



犬飼ガバナーより「ロータリークラブの活動はPR不足もあって一般に認識されていないくらいがあり、理解されていない面も多いが、これは私達の責任でもある。今後は広報活動やPR活動を強化していきたい。しかし、より大きく見せる必要はなく等身大のPRが大切であり、マスコミには正確な資料を提供し、真実を報道してもらうことが必要だ。各クラブには積極的なPR活動をお願いしたい」と述べ広報活動の必要性を強調されました。続いて地区広報委員長より「今年度の広報活動はガバナー方針に基づいて、積極的に取り組みたい。先ず広報委員会の任務とは、広く一般世間にロータリー活動並びに歴史、綱領等の情報を提供するために適切な宣伝を行う方策を考案してこれを実施するよう、クラブ細則に謳われています。

また広報の責務については、ロータリー活動の中で成功を収めた奉仕プロジェクトや活動でロータリーの意図と業績を明らかに示すものを報道機関を通じて広報し、地域社会に広めることであり、ロータリーと報道機関の良好な関係を維持することがクラブ細則に示されています。

おかげさまで、この度報道機関として、本日ご来席いただきました、中部経済新聞社が私共の広報活動に対して、全面的にご協力が頂けることになりました。新聞のかなりのスペースを使用しまして、「ロータリー・ライオンズコーナー」として、記事は交互に、土曜日を除き毎日掲載されています。

各クラブの広報委員会は、ニュースバリュー豊かなクラブ活動を新聞社に提供し掲載されますことを期待します。次にもう一つ広報の任務としまして、ロータリーに対して不利な世論が生じた場合に、誤解を解くよう努力をせねばなりません。

地域によってはロータリーに否定的な態度を示す傾向とか、ロータリーの声価を損ない活動の効果を制約しかねない状態や、ロータリーのプログラムに好ましくない影響を及ぼしている場合にはこれを防止し矯正するための積極的な措置を講じなければなりません。

今後共広報としましては以上のようなことにも注意を払い、ロータリーと報道機関相互の関係向上を図り広報活動、PR活動の促進に皆様方の英知と実践力でご尽力いただきたい」と今年度の広報活動方針を説明した。次に「ガバナー月信」を担当している福島地区副幹事から同紙発行の苦労話と今後の協力要請などが行われた。

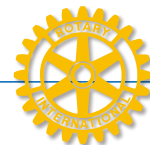
最後に中部経済新聞社からロータリークラブ活動の報道の必要性と、資料提供の手法、掲載形式の説明などがあり、その後活発な質疑応答が行われ会議は終了した。

と1997-98年度クラブ広報委員長会議の報告書が月信に記載されています。

当時の話を聞く為に、元地区広報委員長 吉水正溥氏の会社に訪問し、お話を聞きました。

自分の年度から中部経済新聞のコラム掲載が始まった事、さらに対談の中で当時、中部経済新聞の選任者としてロータリーの記事取材担当記者として会議で「ロータリークラブ活動の報道の必要性と、資料提供の手法、掲載形式」の説明を皆様のご存知の「伊藤博記者」が当時の会議で説明したとの情報を得て、伊藤博記者に確認をしました。「ロータリー・ライオンズコーナー」コラムのロータリーの選任記者に任命され現在に至っていること、また、伊藤博記者の取材ポリシーは犬飼ガバナーの話「より大きく見せる必要はなく等身大のPRが大切であり、マスコミには正確な資料を提供し、真実を報道してもらうことが必要だ」を守り現在に至るまで取材をしているとの事です。最後に中部経済新聞のロータリー情報を「ロータリアン・一般市民」に提供をするコラム欄の開設を働き掛けたのは、ガバナーエレクト時代に犬飼栄輝氏が中部経済新聞を訪れ、記事掲載が実現しました。先陣を切るガバナーの働きには素晴らしいものがあります。

田中正規ガバナーホームページから「ガバナーの歩み：2760文庫」に1949年からの月信が収集され、閲覧が出来ます。2760地区ガバナーホームページをご覧ください。



鳥羽の火祭り

旧暦正月 7日（現在は毎年 2月第 2日 曜日）に奉納される「鳥羽の火祭り」。県指定無形文化財である。神々しい杜に抱かれた神明社の境内に石造りの祭壇の様なものが見られる。ここが高さ 5m の「すずみ」を立てる舞台である。夜空を焦がして燃え盛る火柱の中、二組に別れた男達が神木を奪い合い神前に備える勇壮なこの祭は 1200 年の歴史を持つといわれる。さきの大戦中、灯火管制がしかれたので昼間に祭を行って伝統を守ったという。その心意気に喝采を贈りたい。

燃え残った竹で箸を作り、これで食事をすると歯の病を知らず、養蚕に用いられれば豊作であると伝えられる。



第3回 日本の伝統まつり ポスター展 大賞受賞

第3回日本の伝統まつりポスターコンクールで、西尾市観光協会が応募した「鳥羽の火祭り」が最優秀の大賞を受賞しました。全国で開催されている伝統あるまつりの広報・宣伝ポスターを一堂に集め、それぞれのまつりの相互理解と交流を深めようと、同コンクール実行委員会が主催。全国 27 府県から 60 点の応募がありました。



